

会 議 録

会議の名称	令和2年度第3回行田市総合教育会議
開催日時	令和3年2月1日（月） 開会：午後2時　閉会：午後4時45分
開催場所	行田市産業文化会館　2A・2B会議室
出席者（委員）氏名	石井直彦市長、鈴木トミ江教育長、岸田昌久委員、 鹿山高彦委員、飯塚千十世委員、大澤恵子委員
欠席者（委員）氏名	なし
事務局	石川副市長 生涯学習部：藤井生涯学習部長 学校教育部：吉田学校教育部長、荻原参事兼学校教育課長事務取扱、 諸貫学校教育部次長兼教育総務課長、 須永学校教育課主幹 総合政策部：畔上総合政策部長、鴨田総合政策部次長兼秘書課長、 島田企画政策課長、蓮見企画政策課主幹、 横倉企画政策課主査、渋谷企画政策課主任
会議内容	議事 （1）複式学級解消について （2）通学区域の見直しについて 報告 （1）GIGAスクール構想について （2）中央小学校・星宮小学校の再編成に係る進捗状況について
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議次第</li> <li>・ 総合教育会議構成員名簿</li> <li>・ 資料1-1　総合教育会議と教育大綱について</li> <li>・ 資料1-2　第2次行田市教育大綱（素案）</li> <li>・ 資料1-3　第6次行田市総合振興計画（案）〔抜粋〕</li> <li>・ 資料2-1　GIGAスクール構想の実現に向けた計画書（案） 〔概要版〕</li> <li>・ 資料2-2　GIGAスクール構想の実現に向けた計画書（案）</li> <li>・ 資料3　複式学級解消に係る進捗状況について</li> <li>・ 資料4　令和2年度学力向上支援教員活動評価</li> </ul>
その他必要事項	傍聴者　4名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、次第の3「議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議は、議事の中で個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただく。また、会議録の作成は要点筆記とし、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただく。</li> <li>・それでは、本日の「議事」に入る。進行については、要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは石井市長に議事の進行をお願いする。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。</li> <li>・はじめに、議事の（1）「教育大綱（素案）について」事務局から説明をお願いする。</li> </ul>
事 務 局	<p style="text-align: center;">＜資料1-1、1-2、1-3により説明＞</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育大綱は、市の最上位計画である第6次行田市総合振興計画を踏まえて策定するとのことであるが、これまで取り組んできた第5次総合振興計画の総括や検証をしっかりと行い、次期大綱の内容に反映させる必要があるのではないか。</li> <li>・今年度及び来年度から始まる新たな学習指導要領においても「生きる力の育成」がうたわれており、知識だけに頼らず、変化に対応し自ら未来を切り拓いていく力を養うこと、やる気や探求心を育むことは非常に重要な視点である。</li> <li>・新たな教育大綱においては、その基本理念として「郷土に誇りをもち」とあるが、郷土学習についてこれまでどんな取り組みを行ってきたのか。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6次行田市総合振興計画については、現在、市議会において審議いただいているところであるが、第5次行田市総合振興計画の総括及び検証を行い、その結果を踏まえて新たな総合振興計画の策定に取り組んできたところである。</li> <li>・当然、次期総合振興計画に基づく新たな教育大綱についても、第</li> </ul>

鹿山委員	<p>5次行田市総合振興計画の検証結果を踏まえた内容となり、同大綱により、教育環境の変化に対応した新たな施策に取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郷土に誇りをもつためのふるさと教育については、これまでも地域への愛着を深められるような教育に積極的に取り組んできたところである。今後はこうしたふるさと教育の取組みをさらに推進し、子どもたちには行田で生まれ育ったことに誇りや愛着をもち、行田に住んでいてよかったと思えるような教育に取り組んでいきたいと考えている。</li> <li>新たな大綱については、細かな点まで配慮された内容になっていると感じているが、現時点で新たな大綱を策定するのであれば、感染症対策といった観点も内容に盛り込むべきではないか。</li> <li>昨今の新型コロナウイルス感染症の影響によって、子どもたちもこれまで当たり前に来ていたことが当たり前にならなくなっていった不自由さを感じているはずである。新たな教育大綱において、「新型コロナウイルス感染症」という表現でなくて構わないが、その内容の中に、「子どもたちに寄り添い、子どもたちの心身の健康を守っていく」ということを市の強い意志として盛り込むべきではないか。</li> <li>また子どもたちには、今般猛威を振るう新たな感染症を教訓にして、大きく成長してもらいたい。児童・生徒一人ひとりが困難を乗り越え、たくましく生き抜く力のみならず、逆境を乗り越える豊かな発想力、他人を思いやり認めあう心、命の尊さ等を改めて見つめ直すような内容についても、新たな教育大綱にも盛り込む必要があるのではないかと考えている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>いただいたご意見については、新たな教育大綱へどのように盛り込めるか事務局にて検討を行い、次回会議にて委員の皆様にお示ししたい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症については、現在も広範囲に大きな影響を及ぼしており、今後どういった方向へその影響が波及していくか不透明な点も多い。</li> <li>今後については、新たな教育大綱をより実りあるものとするために教育行政方針を策定し、大綱の実現に向けた重要施策や主要事業を検討していくこととなるが、そうした個別事業等の中に感染症関連の対策を盛り込むことも一案ではないか。</li> <li>また、委員の皆様よりこの新型コロナウイルス感染症についても、さまざまなご意見をいただきたいと考えている。</li> </ul>

飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田市は今後、大きく人口が減少していくことが予想されており、今後も市民や多くの人にとって魅力あるまちであり続けるためには、子どもたちが郷土に誇りをもつことや、地域の愛着を育むような教育の重要性はますます高まっていくのではないか。</li> <li>・新たな教育大綱においては、その基本方針の中に「子どもの健全育成と心の教育の推進」が掲げられており、悩みを抱える子どもとその家族に対する支援が挙げられている。例示の中では、「不登校やひきこもり、いじめ」が挙げられているが、障がいを持つ子どもや特別な支援が必要な子ども、その家族等への支援についても明示する必要があるのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6次行田市総合振興計画においては、その基本計画の中の政策分野の柱の一つとして、「生きる力をはぐくむ教育内容の充実」を設けている。その主な施策として、「特別支援教育の充実」を掲げており、市としても相談体制の充実や多様な学びの場の充実等に取り組んでいくものである。</li> <li>・新たな教育大綱においても、特別支援教育の充実等について盛り込めるかも含めて検討する。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育大綱は新たな総合振興計画の内容を踏まえたものであるが、特に重要な分野については、総合振興計画と教育大綱の双方に施策として掲げることも必要である。</li> </ul>
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな教育大綱では、その基本理念である「郷土に誇りをもち 未来を切り拓く人材を育む」というフレーズがとても印象的であると感じた。</li> <li>・地域と連携した多様な学習を推進していく上では、郷土への愛着や誇りをもった子どもたちを育成することは非常に重要である。</li> <li>・同大綱の基本方針の中では、「魅力ある生涯学習やスポーツ・レクリエーションの推進」が掲げられており、今後は継続的にその環境づくりを図っていくことのみならず、まちの活性化をはじめとした地域への還元がより一層実現できれば良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと教育のさらなる充実により、子どもたちの「ふるさと行田」への愛着を高めるだけではなく、将来の行田市を支える担い手の育成にもつながるものと考えており、引き続きさらなる推進に取り組んでいく。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5次行田市総合振興計画の検証を行う中では、子どもたちの学力について芳しくない結果が出ている。これらを踏まえ、教育委員会でもこれまで蓄積してきた少人数指導、複数指導の実績と成</li> </ul>

事務局	<p>果を継承、発展させ、より学力向上を目指すため、少人数学級編制制度から、学校の実情に応じて学力向上支援教員を配置する制度への転換等、抜本的な改善を進めているところである</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、全国学力・学習状況調査について全国一律での実施は中止となったが、埼玉県学力・学習状況調査は実施された。本市の結果はどのようなであったのか。</li> <li>埼玉県学力・学習状況調査については、当初4月実施予定であったものが、7月に各自治体において任意にて実施することとなった。</li> <li>本市においては今年度本調査を実施しなかった場合、来年度において子どもたちの学力の比較ができなくなることから、本市でも7月に実施したものである。</li> <li>本市の平均点については、埼玉県の平均点を若干下回った結果となった。これらは、4月から6月にかけての授業において、前年の復習に十分時間を割けなかったことが要因であったと認識している。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境を取り巻く今般の状況は、どの自治体でも同じである。学力が上がらなかった詳細な要因を分析し、積極的に改善に取り組んでいかなければならない。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの郷土に対する愛着を高めるためのふるさと教育について、授業として取り組める時間やその展開策等、具体的な考えはあるか。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市には、歴史あるまちを反映するように、素晴らしい文化財を多く所蔵する郷土博物館があるが、子どもたちの学習においては同館を十分に活用できていないのではないかと感じている。子どもたちの教育に資するような、これまでにないさまざまな活用策について、毎年の重要施策を立案する中ではよく内容を検討してもらいたい。</li> <li>他にはよろしいか。</li> </ul>
<p>&lt; 休 憩 &gt;</p>	
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>次に、議事の(2)「GIGAスクール構想について」事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
事務局	<p>&lt; 資料 2 - 1、2 - 2 により説明 &gt;</p>

<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C T機器を活用したG I G Aスクール構想の実現にあたっては、I C T機器をはじめとしたさまざまなツールをいかに活用し、子どもたちにとって、より効果的な学習が実践できるかが最も重要である。</li> <li>・ 最大限かつ適切に有効活用を図ることができれば、その効果は大変大きい。昨今の感染症の状況も踏まえ、対面授業との組み合わせや学校休業時の対応等、さまざまな場面を想定して準備を進める必要がある。</li> <li>・ 教育委員の皆様も、ぜひ実際に学校に足を運んでいただき、I C T機器を活用した授業をご覧いただいた上で、さまざまなご意見を出してもらいたい。</li> </ul>
<p>鹿山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ G I G Aスクール構想については、保護者や子どもたちを含め、多くの方が期待している。一方で、新たな授業形式、新たなツールの活用となるため、機器の操作に時間をとらわれてしまわないか心配に感じる面もある。</li> <li>・ 適切にI C T機器を活用するためには、先生たちのスキルアップはもちろんのこと、トラブル時の対応や子どもたちへの対応等、学校に求められる課題は多い。</li> <li>・ 特にトラブル発生時の対応については、トラブル解決のためのデータベースの構築やその共有等、先生たちがいち早くかつ簡単に解決策を見つけられるような情報の共有を図ってもらいたい。</li> <li>・ また、I C T機器が及ぼす子どもたちの健康面への悪影響についても大変懸念している。機器の発するブルーライトに起因するドライアイやストレートネック、視力低下の他にも、姿勢の悪化等、子どもたちの健康面への影響については注意深く、きめ細やかに把握し、適切に対処していかなければならない。</li> </ul>
<p>事 務 局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての先生たちが利用可能なクラウド環境を活用することで、トラブル発生時の対処方法を共有することは可能であることから、こうしたツールの活用を検討している。</li> <li>・ また、システムを提供するMicrosoft社においても、教育プラットフォームであるGIGA Promo導入団体に対しては、専用のトラブル対応チャンネルを設け対応が図られる予定である。市としても、機器のトラブル発生時にスムーズに対応できるよう、さまざまなツールを活用して支援していく。</li> </ul>
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に運用を始めてから生じてくるトラブルも多いものと思われる。適切な運用を図り、子どもたちの教育環境の充実を図るため、一つひとつ課題を解決していきたい。</li> <li>・ また健康面への悪影響についても、大変危惧される。各学校にお</li> </ul>

<p>岸田委員</p>	<p>いてはこれまで以上に子どもたちの状況を注視し、ささいな変化にも気付けるよう一層の配慮をするとともに、健康情報等に関連する情報収集にも務めてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を自宅に持ち帰り、家庭学習に活用できることは大変素晴らしいものである。各家庭においては、積極的にその活用を図ってもらいたいと願う。</li> <li>・今年度は、オンライン形式で他自治体の教育委員会との意見交換や情報交換の場である「令和2年度市町村教育委員会オンライン協議会」が開催された。この会議では、遠方地域の教育委員との意見交換が行えた一方で、オンライン形式となったことによる、会議への没入の程度に違和感を覚えた。</li> <li>・子どもたちの学習においても、同様の違和感が発生することが見込まれる。ICT機器を活用してこれまで以上に理解の深まる授業の実践のため、子どもたちのやる気や好奇心を喚起する取り組みについて、指導を行う先生たちとしても、オンライン形式の特性も踏まえながらよく検討してもらいたい。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想の実現にあたっては、ICT機器を使用することが目的ではなく、それらをいかに活用し、子どもたちに対して充実した授業を行えるかが最も重要である。</li> <li>・ICT機器を活用した授業を通じて、子どもたちが自ら考え課題を整理したうえで、必要な資料を見つけ出し、それらを活用して正しい答えを導き出す力を身につけさせるような新たな学習が求められている。</li> <li>・子どもたちの理解が深められるような、より効果的な授業の実施や学力向上を図るため、特にICT機器の活用については、継続的に改善を図っていく必要がある。</li> </ul>
<p>岸田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットが発達した現代社会においては、その活用により自らが知りたい情報がすぐに、簡単に手に入れられる状況にある。</li> <li>・その一方で、簡単に情報を手に入れることに慣れてしまったが故の弊害もあり、図書館等で本や図鑑から必要な情報を自身の手で見つけ出す経験も、子どもたちの豊かな感性を育てる上では重要なのではないか。</li> </ul>
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想によるICT機器の学校教育への導入は、子どもたちの学びをよりよくするための一つの手段である。こうした機器をはじめとした新たなツールと、これまで蓄積された教育方法、児童・生徒に直接向き合う先生たちの力を複合的に組み合わせ、効果的な授業の実施、学力向上に取り組んでいかなければ</li> </ul>

<p>飯塚委員</p>	<p>ればならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生たちへの研修をはじめとしたサポート体制についても、大変素晴らしく、今後も運用を進めていく中でさらなる充実を図ってもらいたい。</li> <li>・私たちが働き方改革の名のもと、社会活動においてさまざまな変化に対応することが求められており、今回のGIGAスクール構想についても、同様の視点で捉えることができる。同時に、子どもたちの隙間時間を有効活用してもらおうかという点も重要な視点なのではないか。</li> <li>・現代の子どもたちは、幼い頃からデジタル環境に慣れ親しんだ世代であり、ICT機器の導入にあたっては大きな抵抗感はないものと思われる。一方で、先生たちや保護者にとっては新たな経験であり、特に家庭学習での活用方法等については、保護者に対して丁寧に説明を行ってもらいたい。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン研修等の実施により、新たな課題も出てきたところである。特に授業内容によっては、オンライン環境に適しているものと、子どもたち全体の状況が見えにくいためオンライン環境を十分に活かしきれていないものが見えてきている。</li> <li>・オンライン形式の活用については、一律の対応ではなく、目的に応じた手段の使い分けを図り、ICT機器を活用した効果的な授業についてさらに検討を進めていく。</li> <li>・市内には通信環境のない世帯も一定数あることから、すべての子どもたちがICT機器を家庭においても活用できるよう支援を進めると同時に、「行田版 ケイタイ・スマホ 家庭の約束」を基に、家庭でのタブレット端末等の活用ルールについても示していきたい。</li> </ul>
<p>大澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のGIGAスクール構想の実現にあたっては、ICT機器の導入という視点だけではなく、機器の活用方法を工夫し、学習効果を高めていくことが重要である。</li> <li>・どのような内容の授業であれば、ICT機器の有効活用が図れるのかという点について、先生たちに対する具体的な準備体制、支援体制を整えるとともに、家庭での協力体制も整えていかなければならない。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用により、例えば算数の授業であれば、およそ30～35分でまとめまで行い、残りの授業時間は応用問題等、自らの学習に充てられるものと考えている。</li> <li>・また、理科の授業においては、水が沸騰する様子を一人の児童が</li> </ul>



鈴木教育長	<p>タブレット端末で撮影し後から見直したり、もう一人の児童が温度の記録を行う等の工夫が見込める。こういった授業で、どのような活用が図れるのか、実際の事例等も参考にしながら、具体的な活用策の検討を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末等の活用により、家庭からオンライン上で課題提出が可能となる等、利便性も向上することから、家庭での活用についても丁寧に説明していく。</li> <li>・ICT機器の活用については、県立総合教育センターとも情報共有を図るなど連携をさらに深めている。今後もさまざまな優良事例を取り入れながら、ICT機器を活用した効果的な学習方法の充実について検討を図っていく。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用について、各学校間で指導方法に差が出てしまうことが危惧される。通う学校によって大きな差が出ないように、特に配慮する必要があるのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生たちのICTに関する知識習得については、教員研修や情報主任会等を活用し、すべての子どもたちに効果的な授業が行えるようしっかりと取り組んでいく。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある学校の優良事例を他校にも共有する等、さまざまな方策について検討してもらいたい。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材の活用の中に「ICT支援員」とあるが、具体的にはどのような役割を有する者か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員とは、ICTに関する専門的知識を有する方を支援員として活用し、各学校を巡回して機器の操作支援をはじめとした先生たちへの指導にあたるもので、現在配置を検討している段階である。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような新たな取り組みを効果的に実践するにあたっては、皆様のご意見が非常に重要である。実際に授業をご覧いただき、多くの意見や改善提案をいただきたい。</li> <li>・他にはよろしいか。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次に、報告の（１）「複式学級解消に係る進捗状況について」、事務局から説明をお願いする。</li> </ul>
事務局	<p style="text-align: center;">＜資料３により説明＞</p>

議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回行った北河原小学校及び須加小学校の保護者アンケートについては、どのような目的で行ったものなのか。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で、地域の皆様の意見集約を図り、それぞれの保護者がどんな学習環境を望んでいるのか、どの学校に通いたいのかという希望といった、地域全体の状況を把握するため行ったものである。</li> <li>・また、アンケート結果については、各学校のPTAとも情報共有を行い、ともに協議を行っていく予定である。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、「地域の学校を存続してもらいたい」という希望が多くなった場合には、どのように対応するのか。両校の存続という選択肢も残しているのか。</li> <li>・また、「複式学級でもよいから、地域の学校を残してもらいたい」という意見も一定数あることが予想される。地域の理解を深めるためには、丁寧な説明を行っていく必要がある。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北河原小学校及び須加小学校については、保護者の皆様から「存続してほしい」というご意見もいただいているところであるが、子どもたちの学習環境として、複式学級となっている現在の状況は早期に解決しなければならないものである。</li> <li>・こうした状況を踏まえ、令和4年3月には廃校とさせていただきたいとお知らせも各保護者に対してお送りしたところである。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会としては、存続という選択肢は示していない。複式学級解消の手段として、統廃合や編入等の事例をお示ししながら説明を行っている。</li> </ul>
鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級の解消については、前回の総合教育会議でも議論いただいた通り、最優先で取り組むべき課題である。これに取り組むため教育委員会としては、両校は廃校の方向で進め、その中で統廃合や編入について考えていきたい。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白紙解消となった義務教育学校の設立に向けた経緯においても、地域の皆様の意見の取り入れがうまくいかず、地域の真の希望を反映した学校づくりができていなかったのではないかと感じている。</li> <li>・また、このような状況に再度陥れば、子どもたちにも大きな影響を与えてしまうこととなり、大人の都合で子どもたちを迷わせて</li> </ul>

	<p>しまう状況になりかねない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もちろん複式学級の解消は最優先で取り組むべき課題ではあるが、一方でこれまで16年近く複式学級という状況と共存し続けてきたという面もある。</li> <li>・こうした状況や経緯も踏まえて、委員の皆様よりご意見を伺いたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後行われる地域説明会では、保護者を含む地域住民の皆様にもご参加いただき、保護者アンケートの結果を示したうえで、改めて地域の学校について考えていただく場としたい。その上で、教育委員会としての考え方を丁寧に説明していく。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確固とした考え、明確な説明がなければ、白紙解消となった義務教育学校設立の問題と同様のことが発生する可能性がある。</li> <li>・学校の存続については、保護者との議論を始める段階で、地域の皆様の理解のもと、先に進んでいかなければならない。</li> <li>・地域住民の意見として、「学校を残してもらいたい」との意見が一定数ある可能性もある。市の意向のみをもって再編成を進めるのではなく、地域に対する丁寧な説明が必要である。</li> <li>・白紙解消となった事例を繰り返さないためにも、地域と学校とのあるべき姿について、住民の皆様にも納得いただいた上で、統廃合や編入について検討していくべきではないか。教育委員会としても、地域の皆様の意見も聞きながら、慎重に検討を進めてもらいたい。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北部地区義務教育学校の設立にあたっては、北小学校の改築計画とも関連していたと認識している。</li> <li>・子どもたちの安全を守るためにも、当初のスケジュールや改築の期限等も見据えながら、総合的に検討していく必要がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行田市公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編成計画」においては、北小学校については、北部地域義務教育学校の設立に合わせて通学区域の見直しを行う予定となっていた。</li> <li>・なお、全市的な学校再編成の長期的なスケジュールについては、今後の社会環境の変化等も踏まえながら、柔軟性をもって見直しについて検討していきたい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見沼中学校については、既に適正学級数が確保できておらず、今後はさらに少人数となることが予想されており、このまま中学校として維持することは困難ではないか。</li> <li>・特に中学校は、多くの生徒と切磋琢磨し多様な関係を築いたり、</li> </ul>

岸田委員	<p>部活動をはじめとしたさまざまな活動にチャレンジする等、一定規模の生徒数確保は重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学区域審議会においてもこうした課題を取り上げていただき、子どもたちの希望を叶えられるような新たな制度についても検討してもらいたい。</li> <li>・北小学校の建替え年度はいつを予定しているのか。また、新たな建替え用地から検討を始めるとすると、計画から竣工までに何年ほどかかる見込みか。</li> <li>・子どもたちの安全を守るためにも、学校の安全対策や改築計画については、しっかりと把握し対応していく必要がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北小学校については1967年の建築で、2032年が建替え年度となっている。当初の耐用年数は60年であり、2027年に建替え予定であったが、適切な耐震改修工事等の実施により、耐用年数が65年に延長されている。</li> <li>・新たな建設予定地を検討する場合、少なくとも検討を始めてから5年以上はかかるものと見込まれる。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の耐用年数や建替え年度との関係もあり、この問題は総合的に考えていかなければならない。特に北小学校については、あと10年しかないという危機感をもって取り組んでももらいたい。</li> <li>・北部地域の学校のあり方がどうあるべきかについて、早急に方針を示したうえで、太田地区についても住民の皆様の意見も踏まえながら、子どもたちの教育を第一に考えた学校再編成、学校運営を進めていく必要がある。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6次行田市総合振興計画や第2次行田市教育大綱の中に、「小中一貫教育の推進」が掲げられているが、今後の小中一貫校設立という選択肢についても検討していくのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校のような一体的な施設整備を伴うものは、短期間での実現は難しいものと考えている。</li> <li>・一方で、小中一貫教育の取組みについては、総合振興計画及び教育大綱に掲げられているとおり、その推進に取り組むものとし、9年間を見通した連続性のある一貫した学習指導による学習意欲の向上や豊かな人間性、社会性の育成等に取り組んでいくものである。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にはよろしいか。</li> </ul>

	＜休 憩＞
議 長	・次に、報告の（２）「学力向上支援教員の活用状況について」、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	＜資料４により説明＞
議 長	・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会においては、これまで蓄積してきた少人数学級や複数指導の実績と成果を継承、発展させ、さらなる学力向上を目指すため、少人数学級編制制度から、学校の実情に応じて適切な教員を配置する制度への転換を進めているところである。</li> <li>・学力向上支援教員とこれまで配置されていたパワーアップサポーターとは、どのような点が異なっているのか。また、それぞれの学校に応じた支援員の配置については、どのように調整を図っているのか。</li> <li>・学力向上支援教員に対する保護者や子どもたちからの評価については、どのように認識しているか。特に、実際に授業を受けた子どもたちからの評価については非常に重要で、今後の改善にもつながるものではないか。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上支援教員は、基本的に子どもたち一人ひとりに寄り添う支援を行うものである。また、教室を二つに分けて理解度に応じた授業を行ったり、ティーム・ティーチングによってきめ細やかな授業を行えるようになるものである。</li> <li>・パワーアップサポーターについては、若手教員への指導という意味合いも含まれており、担任教員がベテラン教員であるパワーアップサポーターによる模範授業を経験し、それらを自らの授業に活用することも行っていた。</li> <li>・各学校において時間割を組む段階で、学力向上支援教員をどこに配置するのか、配置クラスはどうするのかを踏まえたものとしている。</li> <li>・資料でお示しした活動評価については、各学校に作成を依頼し、とりまとめたものである。</li> <li>・保護者の皆様や子どもたちからの意見については、今後把握していきたい。</li> </ul>
鹿山委員	・各学校での放課後での補習授業については、ベテラン教員の方が授業を配信し、タブレット端末等を通じて視聴するような形はと

	れないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の学校臨時休業中には、先生たちの協力をいただき、「ぎょうだスタディチャンネル」を通じて授業の配信を行ってきたところである。</li> <li>・配信した授業については、各科目の一部をピンポイントで取り上げたもので、同様の形で配信すれば、子どもたち自身が自らの苦手分野やチャレンジしたい分野等について、隙間時間を活用し集中的に学ぶことができるものと考えている。</li> </ul>
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に、それぞれの先生たちが学力向上支援教員に対して、どのようなことを要望しているのか。</li> <li>・また、学力向上支援教員同士で相談し合ったり、情報交換し合ったりする場を設けることも必要ではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に運用を進めていく中で、打合せ時間の確保やお互いに意思疎通を図ることに課題を感じている教員も多い。</li> <li>・また、学力向上支援教員同士のネットワークや相談体制等については、各支援教員や学校にて個別に対応している状況にある。</li> <li>・今後は、支援教員を対象とした研修等の実施等、円滑な授業の実施や学力向上支援教員に対するサポート体制の充実についても検討していきたい。</li> </ul>
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想の推進により、各授業でICT機器の活用が進んでいくものと見込まれる。今後、学力向上支援教員に対するICT研修等を行う予定はあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上支援教員の中にも、ICT機器の活用に関心を持った教員がいる。今後はそうした知見等も活用し、積極的に組織横断的な展開を図りながら、研修実施や情報提供等を行っていきたい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上支援教員については、学校からの要望により人員配置を検討するだけでなく、教育委員会としてある程度の配置基準を設ける等、主導的かつ戦略的な支援教員の配置を検討してもらいたい。</li> <li>・どの学校の、どの授業に課題があるのかを教育委員会としてしっかりと分析し、支援教員のピンポイントでの配置等により、全体的な学力向上につなげていく必要がある。</li> <li>・学力向上支援教員は、文字通り学力向上を目指すために配置しているものである。特に委員のおっしゃる通り、実際に授業を受けた子どもたちからの評価については非常に重要であり、こうした</li> </ul>

	<p>意見をしっかりと集約し、今後の改善にもつなげていかなければならない。</p>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの学力評価は、全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査のみで測るものではなく、毎日の授業での単元ごとのテスト等においても把握が可能である。</li> <li>・先生たちには、子どもたちの理解度等を短期的に細かく把握する等、校内組織を総動員して、随時改善に取り組んでいただきたい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にはよろしいか。</li> <li>・次に、(5)「その他」について、事務局から連絡事項等があればお願いします。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の総合教育会議は、3月17日(水曜日)午後2時からの開催を予定している。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、教育委員の皆様から何かあればお願いします。</li> <li>・それでは、これにて議事を終了する。教育委員の皆様には、スムーズな議事進行にご協力賜り、誠にありがとうございました。</li> <li>・それでは、これをもって議長の職を解かせていただき、事務局に進行をお返しする。</li> </ul>
司会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上をもって、令和2年度第3回行田市総合教育会議を閉会とする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">&lt; 閉 会 &gt;</p>